

第 2 日

第 1 会場

I-1 ファンタジー教材の研究(1)

—虚構の現実世界と虚構の非現実世界との境界—

鳴門教育大学大学院 池西郁広

ファンタジー教材といわれる「白いぼうし」「くじらぐも」は昭和42年から小学校国語教科書に採録され、23年経った現在も採録され続けている。つまり、小学生に読ませたい教材として定着し、1つのジャンルを形成しつつあると思われる。

そこで、まず、虚構の現実世界と虚構の非現実世界との境界のあり様によって〈ファンタジー〉の定義を行う。次に、その定義に基づき現行小学校国語教科書における物語教材を分類し、〈ファンタジー〉教材採録の現状を調査する。

さらに、今回の発表では、〈ファンタジー〉教材の研究の(1)として、「くじらぐも」を〈ファンタジー〉の定義に基づいて分析し、第1学年に読ませることの意義を探る。

I-2 物語教材の指導における基礎的な「課題」の研究

埼玉大学大学院 渋谷昌美

小学校における物語教材の指導の現状として次のようなことがいえる。

- ① 1教材に多くの指導的内容を盛り込む。
- ② 結果的に1教材に多くの時間数がかかる。
- ③ 「課題」や「発問」が「人物の気持ち」中心である。

児童はこのような授業を必ずしも喜んではいない。

本研究は、物語教材の指導の現状を見直し、小学生に物語の基本的な読み方、物語を読む楽しさを教える指導法の究明が目的である。

具体的には、「課題」の着眼点として、「中心人物の様子(イメージ)の変化」に焦点を当て、基礎的な「課題」を与えていくという提案である。先行研究を踏まえながら、具体的な実践案を提示していく。

I-3 江戸末期から明治初期の児童読み物

—かちかち山話をめぐって—

東京学芸大学附属高等学校大泉校舎 加藤康子

文学における江戸期と明治期の連続性は、これまで個々の作品において指摘されることが多かった。だが、児童読み物の研究の場合は、近世と近代に分けてそれぞれ近世文学と児童文学の分野で行われてきた。その中で極限られた研究者が両者にわたって一続きの出版文化として概観しようとした。近年その見方が注目され、具体的に実証しようとする研究が試みられている。ここでは、かちかち山話が江戸末期の小型本の場合、どのように明治期の小型本と関連しているのかを整理し、児童読み物において江戸期と明治が連続している部分があることを示す。このことは、国語教育の場で児童読み物